

教科・「科目」	地歴・「世界史A」	単位数	学習形態	学年	履修学科、必修・選択の別等
		2	座学	1	全学科必修履修科目

### 1. 目標と評価規準

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。</li> <li>人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考を培う。</li> <li>国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</li> </ul>	
評価の観点と比重	評価規準	評価の方法
関心・意欲・態度 (30%程度)	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。	学習状況 授業内容に関連する発表等
思考・判断・表現 (20%程度)	人類の課題を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し公正に判断する。	レポート提出や授業中のレポート発表等
資料活用の技能 (20%程度)	的確な情報を選択して活用することを通じ、諸事象を追究する方法を獲得する。	ノートやレポート 定期考査等
知識・理解 (30%程度)	我が国の歴史と関連付けながら世界史を理解し、知識を身に付ける。	定期考査等
使用教材等	教科書：山川出版社『改訂版 世界の歴史』 副教材：啓隆社『ランドスケープ世界史図表』	

### 2. 年間指導計画

学期	月	単元・教材名	主な学習内容	ICT利活用
1 学期	4	東アジア世界	東アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に触れ、日本を含む東アジア世界の特徴を把握させる。	電子黒板で板書内容や地図、資料を提示
	5	南アジア世界・東南アジア世界 西アジア世界とイスラーム教	南アジアの風土諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響に触れ、南アジア世界の特徴を把握させる。 西アジアの風土と諸民族、イラン文明の伝統、イスラームの成立と拡大に触れ、イスラーム世界の特徴を把握させる。	
	6	古代地中海世界 ヨーロッパ世界とキリスト教	ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教に触れ、ヨーロッパ世界の特徴を把握させる。	
	7	16世紀の世界と一体化の始まり	16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。	
2 学期	9	新しい時代の始まりとルネサンス 宗教改革	近代世界の開幕とされるルネサンスについて知り、歴史的意義について理解させる。宗教改革の意義と社会に与えた影響について知り、宗教と政治との関係性について考察させる。	電子黒板で板書内容や地図、資料を提示
	10	絶対王政と議会王政 大西洋経済	アジアの諸国家の政治と社会、ヨーロッパの主権国家体制の成立、大西洋貿易の展開を扱う。 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流を扱い、16世紀の世界の一体化への動きを理解させる。	
	11	啓蒙とアメリカ独立 フランス革命・ナポレオン ウィーン体制と自由主義諸国	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解させる。	
	12	アメリカ合衆国の発展 アジアの植民地化	南北戦争と、その後のアメリカ合衆国の発展について知り、その背景や現在に与える影響について考えさせる。 アジアの植民地化の歴史について知り、パクス＝ブリタニカの覇権国家を形成したイギリス植民地政策について考察させる。	
3 学期	1	第一次世界大戦とロシア革命 戦間期の世界 民族運動の高揚 第二次世界大戦	第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義などについて考察させる。	電子黒板で板書内容や地図、資料を提示
	2	冷戦の激化と核戦争の危機 第三世界の出現 多極化と冷戦の終結 現代の世界	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。	
	3	グローバル化とアメリカ EUの拡充とロシア・アメリカ 中国の台頭と多極化	グローバル化の進展について知り、世界の一体化という新しい事態が、世界経済や地球環境に与える影響について考察させる。  冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因や歴史的背景を追究させ、国際社会の変化や国民国家の課題などについて考察させる。	

備考	
----	--